

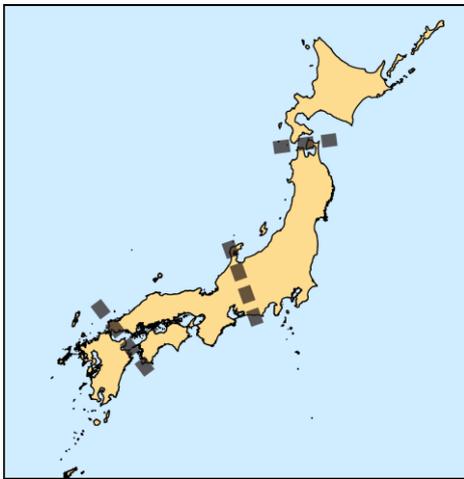
ヨモギ (*Artemisia indica* Willd. var. *maximowiczii* (Nakai) H.Hara)

自然分布域

本州～九州・小笠原諸島，朝鮮半島（門田ほか 2017）

現在，ヨモギは北海道各地に分布しているが，本種がもともと北海道に分布していたのか，それとも人間の活動によって持ち込まれたのかについては議論がある（五十嵐 2016）。

地域性種苗とみなす地理的範囲



※本図は文献に基づき，主要4島（北海道，本州，四国，九州）における当該植物の遺伝的変異の地理的分布の傾向を示している。破線で表示されている場合，境界線の位置や幅は厳密に確定しているものではない。研究の進展に伴って境界線が更新される可能性があるため，学会ウェブサイトで最新情報を確認する必要がある。

解 説

日本全国の国立公園の28集団，604個体の葉緑体DNAの3領域を解析した研究において，主に九州の個体から得られたハプロタイプは，祖先系統であると推定されている（Shimono *et al.* 2013）。また，日本全国684個体（自然生育地の88集団，434個体を含む）のトータルDNA（主に核DNA）から，MIG-seq法によって取得された2,617の一塩基多型（SNPs）を解析した研究においては，日本列島の南西から北東方向に遺伝的多様性が低下していることが示されている（Wagatsuma *et al.* 2022）。これらのことから，ヨモギは氷期にユーラシア大陸から九州に移入した後，遺伝的多様性を低下させながら北上したと推察されている（Wagatsuma *et al.* 2022）。

日本の主要4島（北海道，本州，四国，九州）における種子移動については，遺伝解析の結果から北海道，東日本，西日本，九州の4地区に分けることができるが，ヨモギは北

海道には自生しないという説もあると述べられている (Wagatsuma *et al.* 2022)。

参考文献

- 五十嵐 博 (2016) 北海道外来植物便覧—2015 年版—。北海道大学出版会. p. 140.
- 門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 (2017) キク科. 大橋広好ほか編. 改訂新版日本の野生植物 第 5 巻. 平凡社. p. 334.
- Shimono, Y., Hayakawa, H., Kurokawa, S., Nishida, T., Ikeda, H., Futagami, N. (2013) Phylogeography of mugwort (*Artemisia indica*), a native pioneer herb in Japan. *Journal of Heredity*, 104(6): 830-841.
- Wagatsuma, S., Imanishi, J., Suyama, Y., Matsuo, A., Sato, M. P., Mitsuyuki, C., Tsunamoto, Y., Tominaga, T., Shimono, Y. (2022). Revegetation in Japan overlooks geographical genetic structure of native *Artemisia indica* var. *maximowiczii* populations. *Restoration Ecology*, 30(7): e13567.

情報更新日・作成者

2023 年 5 月 9 日, 日本緑化工学会緑化植物委員会